

M12b **NICT 太陽電波望遠鏡 - IV**

久保勇樹, 岩井一正, 石橋弘光, 巨慎一, 石井守 (情報通信研究機構)

太陽コロナ中で発生する太陽電波バーストは、MHz 帯 ~ GHz 帯にわたる広い周波数帯域の電波を放射する現象であるが、MHz 帯と GHz 帯で放射過程が異なるなどの非常に興味深い特徴を持っており、科学研究の素材として非常に面白い。一方で、GHz 帯の太陽電波バーストが原因で GPS の測位誤差が増大するといった障害や、GHz 帯の太陽電波バーストによって航空機のレーダーシステムが乱され空港での航空機トラフィックが中断するなどの障害が報告されており、宇宙天気災害の原因究明のためのモニターとしての重要性も高まっている。2015 年 10 月に米国ホワイトハウスから出された NATIONAL SPACE WEATHER STRATEGY AND ACTION PLAN の中で、基準 (Benchmark) を決めるべき 5 つの宇宙天気現象の 1 つとして太陽電波バーストは含まれており、宇宙天気災害という観点でも今や太陽電波バーストは中心課題の 1 つとなっている。情報通信研究機構 (NICT) では、MHz 帯 ~ GHz 帯の太陽電波バースト全てをモニター出来る太陽電波望遠鏡を開発しており、既にシステムは完成して現在試験観測を行っている。試験観測で判明したシステム上の不具合もほとんど解決し、2016 年 4 月から定常運用に入る見込みである。本発表では、NICT 山川電波観測施設で稼働を開始した山川太陽電波望遠鏡 (愛称募集中!) で観測されたデータを紹介するとともに、NICT 平磯太陽観測施設の HiRAS と山川太陽電波望遠鏡で同時に観測されたイベントの比較を行う等、山川太陽電波望遠鏡の現状を紹介する。